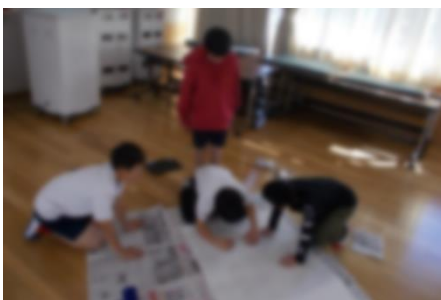


課題を解決する力、新たな価値を創造する力の育成 ～「おおたの未来づくり」の単元開発を通して～



<はじめに 大森第四小学校校長 長町 正弘>

私は教職 36 年目です。当時は「私語は厳禁、静かな環境で」「全員正面を向かせること」など先輩方から指導を受けたものです。ところが今は一人 1 台端末を持ち、自分で設定した課題を解決するために対話的、協働的な学びが求められる時代です。来年度から大田区立小学校で全面実施となる教科「おおたの未来づくり」は、まさに変化の激しい時代を生き抜くために求められる力をはぐくむことを目指していると考えます。キーワードは「相手意識」です。必ず「相手」が存在するからです。自分たちで考えた案は必ずしも相手のニーズに合致しているとは限りません。むしろそうではないことの方が多いと思います。こどもたちは試行錯誤しながら第 2 第 3 の案を考えることになります。そうして課題を解決する力が身に付いていくのだと考えます。本校の実践は始まったばかりですが、これから始めようとしている学校の一助になれば幸いです。

結びに、懇切丁寧にご指導いただきました大田区教育委員会に心よりお礼申し上げます。

<大森第四小学校が考える「おおたの未来づくり科」について>

「おおたの未来づくり科」の実施に向けて、低学年では「町のすてき」を伝えるための表現方法を選択させる活動、中学年の「安全な暮らし」を守るための取り組みを自由進度学習の形態で調べる活動を、創造的な資質・能力の素地づくりのための研究授業として提案した。二つの授業について協議した内容を踏まえ、高学年の「おおたの未来づくり科」の単元計画を作成した。

大森第四小学校の「おおたの未来づくり科」では、地域の多様な教育資源を生かして、地域社会や人々のウェルビーイングにつながる「もの」や「取組」を創造し、発信することを通して、課題解決能力や新たな価値を創造する力を育成すること（第 5 学年）、自分の住むまちのよさを理解し、「地域の創生」に必要な知識及び技能を身に付け、自分の住むまちのよさを発信するなど、地域の活性化に向けた取組に参画しようとする態度を養うこと（第 6 学年）を目標として設定した。

児童の実態

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う児童が少ない。
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することが苦手な児童が多い。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童が少ない。

学校教育目標

- ・ **考える子**
基礎・基本を身に付け、主体的に自分の力で問題を解決し、未来を創る子
- ・ **心豊かな子**
思いやりの気持ちと協力する心を持ち、自分を大切にし、未来を創る子
- ・ **たくましい子**
様々なことにチャレンジし、ねばり強く最後までやりとげ、心身を鍛えて未来を創る子

地域の願い・実態

- ・ 地域には、町工場が多い。
- ・ 海苔の産業が盛んであった。
- ・ 地域を大切にしてほしい。
- ・ 地域の特性を生かした学びをしてほしい。

研究主題

課題を解決する力、新たな価値を創造する力の育成
～「おおたの未来づくり」の単元開発を通して～

目指す児童像

地域の特色について考え、試行錯誤してよりよいものや取組を創出し、発信できる児童

各学年の目指す児童像

低学年	中学年	高学年
・ 地域の社会や生活に関心をもって学習に取り組むことができる。 ・ 地域の社会や生活で発見したものを写真や文章等でまとめることができる。	・ 収集した情報を基に、地域の社会や生活で問題になっていることを発見できる。 ・ 地域社会のために発想したものについて、試行錯誤しながら、よりよいものにしようと粘り強く取り組み、新聞やリーフレット等にまとめ発信することができる。	・ 収集した情報を基に、地域の社会や生活で問題になっていることは何かを判断できる。 ・ 地域社会のニーズを踏まえて発想したものや取組について、試行錯誤しながらよりよいものにしようと取り組み、提案資料等にまとめ、効果的に発信することができる。

研究仮説

地域と連携した学習活動や体験活動を継続的に取り入れたり、学習過程を工夫したりすることで、児童が主体的に課題や問題をもつことができる。見通しをもった学びを工夫することで、自分で学習を調整する力が身に付き、自立した学習者を育むことができる。

手立て

- ・ 外部連携の充実
- ・ 体験活動の充実
- ・ 学習過程の工夫
- ・ 見通しをもって学習を進めるための工夫

<単元計画シート>

5 年生

おおたの未来づくり 単元計画シート

大森第四小

単元名	町工場のものづくりを世界に紹介しよう		学年	5年生
内容	A.ものづくり (イ) オリジナルグッズの制作・販売型		総時間数	35
目標	実社会で活躍する様々な人や先端技術をもつ町の工場等と連携し、地域の多様な特色を教育資源として、地域社会や人々のウェルビーイングにつながる「もの」や「取組」を創造し、発信することを通して、課題解決能力や新たな価値を創造する力を育成する。			
指導計画の概要				
学習過程	主な学習活動			外部連携・教材等
コンセプト	・地域の町工場の技術を学び、そこで働く人たちの思いを捉える。 ・工場で作っているものを、実際に触れてみる。 ・町工場で作られる部品を、自分の言葉で価値付けて、商品にできないか検討する。			・町工場 ・スクールサポート大四
デザイン	・地域の工場から、制作している部品に関する説明を受ける。 ・制作している人たちの苦労や思いを聞く。			・町工場 ・スクールサポート大四
クリエイション	・町工場で作られている部品を分けていただき、児童が考案した説明を付ける。 ・部品を価値付けて、説明を添付することで、部品の新たな価値を創り出す。 ・部品の紹介を行い、販売に向けて、取り組む。			・町工場 ・スクールサポート大四
本単元を行うために授業時数を削減する教科等、本単元で補完する内容及び削減する授業時数				
教科名等	本単元で補完する内容			授業時数
国語	話すこと・聞くこと	・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。		8
	書くこと	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。		
社会 (第5学年)	工業	・製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。		5
算数 (第5学年)	データの活用	・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。		4
外国語	外国語	・身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。		3
	外国語	・身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。		
総合	・地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けている。			15

おおたの未来づくり 単元計画シート

大森第四小

単元名	つなげ！世界と大田区の未来		学年	6年生
内容	B_地域の創生	力：地域の取組の提案型	総時間数	35
目標	・自国のよさを確かめることを通して、他国のよさを発見するとともに、自分の住むまちのよさを理解し、「地域の創生」に必要な知識及び技能を身に付けることができるようにする。 ・相手意識をもって自分の住むまちのよさを伝えられるように試行錯誤しながら提案の準備を進め、発信することができるようにする。 ・外部連携先の方や留学生の方との関わりを大切にするとともに、自分や友達のよさを生かして主体的に取り組み、地域の活性化に向けた取組に参画しようとする態度を養う。			
指導計画の概要				
学習過程	主な学習活動			外部連携・教材等
コンセプト	【課題把握、コンセプト設定】 ・自分の住むまちには外国の方がたくさん訪れることや留学生がいることを知る。 ・外部連携先や留学生を受け入れている人の話を聞き、留学生と関わる上で困っていることを知る。 ・留学生との交流を通して、他国のよさを知るとともに、留学生に自分の住む町のよさを発信する。 ・グループごとに課題や提案したいコンセプトを設定する。			・外部連携先 ・留学生を受け入れている人 ・留学生
デザイン	【情報収集・整理・分析、提案準備、中間報告会】 ・自分の住むまちのよさを伝えるための課題を確認し、収集した情報を整理・分析しながら解決方法を探る。 ・自分の住むまちのよさがより伝わるような方法を考え、グループでアイデアを出し合い、メンバーそれぞれのよさを生かしながら提案の準備をする。 ・中間報告会に向けて、考えた提案を他のグループに発表し、より分かりやすく伝えるように助言や改善し合う。 ・中間報告会の意見や外部連携先の回答を整理・分析し、どのように自分たちの提案に生かすかを考える。			・外部連携先 ・留学生を受け入れている人
クリエイション	【提案内容の見直し、プレゼンテーション、学習の振り返り】 ・中間報告会での意見を生かし、最終的な提案資料をまとめる。 ・留学生に自分たちの住むまちのよさを伝えるための提案について、外部連携先にプレゼンテーションを行い、意見をフィードバックしてもらう。 ・プレゼンテーションのフィードバックを基に、学習を振り返る。			・外部連携先 ・留学生を受け入れている人
本単元を行うために授業時数を削減する教科等、本単元で補完する内容及び削減する授業時数				
教科名等	本単元で補完する内容			授業時数
国語	話すこと・聞くこと	・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。		8
	書くこと	・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。		
	書くこと	・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。		
社会 (第6学年)	国際社会	・外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現すること。		5
算数 (第6学年)	データの活用	・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。		2
図工	表現	・絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること		2
外国語	外国語	・身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。		3
総合	・地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けている。			15

<研究主題に迫るための具体的な取組>

低学年

1 日 時	令和6年12月9日（月）午後1時30分から午後3時45分まで
2 単 元 名	第2学年生活科「もっと知りたい たんけんたい」
3 授 業 者	第2学年3組 清水 茜 主幹教諭
4 時 程	午後1時30分から午後2時15分まで 研究授業 午後2時35分から午後3時45分まで 研究協議会及び指導・講評

創造的な資質・能力の素地を育成する視点

「町のすてき」を伝えるための表現方法を選択させる活動を通して、試行錯誤しながら、課題解決力を身に付けることができるようにする。

<課題を見付けるための手立てと成果>



手立て①

⇒個別最適な学びを保証する指導

手立て

- ・色別の付箋を使い、もの・場所・人に分類した。
- ・あらかじめ表現方法をいくつか提示した。

成果と課題

- 毎回同じ振り返りシートを使うことで、前回の自分の成長を見取ることができた。
- 何を伝えたくて、その表現にしているのかを考えることができた。



手立て②

⇒協働的な学びを充実させるための学習スタイル

手立て

- ・気付きを共有するために、話し合う時間を意図的に設けた。

成果と課題

- ▲話せない児童が話し合えるよう、グループ作りを編成して、児童がすすんでまとめていくこと。



手立て③

⇒ICT 機器の活用

手立て

- ・町探検で見つけたものを写真に残し、協働学習ツールで共有し、発表する際に活用した。

成果と課題

- 自分たちが必要なときに、写真を見ることができた。
- ▲お店の写真のどこを撮影するのか具体的に示していくこと。

中学年

- 1 日 時
- 2 単 元 名
- 3 授 業 者
- 4 時 程

令和6年10月16日（水）午後1時30分から午後3時45分まで
第3学年社会科「安全な暮らし（火さいから人々を守る）」
第3学年3組 菊池 大輔 教諭
午後1時30分から午後2時15分まで 研究授業
午後2時35分から午後3時45分まで 研究協議会及び指導・講評

創造的な資質・能力の素地を育成する視点
課題の発見・解決に必要な情報を収集・活用するための知識及び技能を身に付ける。

<課題を見付けるための手立てと成果>



手立て①

⇒個別最適な学びを保証する指導

手立て

- ・複数のワークシートから、自分に合ったものを選択してまとめられるようにした。
- ・自己調整のため、学習方法についての振り返りを行った。

成果と課題

- すすんで調べ、理解を深めていく様子が見られた。
- ▲教科指導としてのねらいを明確にして、身に付ける力を精選、重点化していく。



手立て②

⇒協働的な学びを充実させるための学習スタイル

手立て

- ・机を自由に動かしてよいこととし、友達と協力して学びに向かえるようにした。
- ・調べている箇所と調べ終えた箇所を視覚化し学び合いを促した。

成果と課題

- 友達との学び合いが充実することで、主体的に学習に取り組むことができた。
- ▲個々の見取りや学習のポイントを共有していくこと。



手立て③

⇒ICT 機器の活用

手立て

- ・クラスルームを活用して動画や図、インタビュー等の資料を配布することで、資料とじっくり向き合って学習できるようにした。

成果と課題

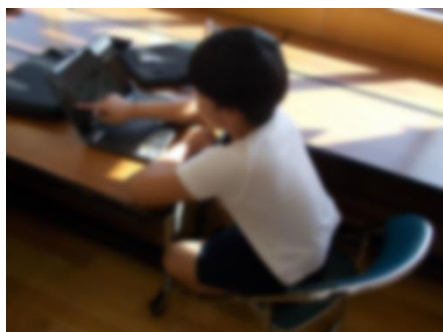
- 自分が調べたいことを追究し、理解が深まった。
- 情報活用能力が高まった。
- 調べたことの共有に活用していくと、学びが充実した。

高学年

1 日 時
2 単 元 名
3 授 業 者
4 時 程

令和7年1月24日（金）午後1時30分から午後3時45分まで
第5学年 総合的な学習の時間
「町工場のものづくりを紹介しよう」
第5学年3組 牛山 保裕 教諭
午後1時35分から午後2時15分 研究授業
午後2時35分から午後3時45分 研究協議会及び指導・講評

<課題を見付けるための手立てと成果>



手立て①

⇒個別最適な学びを保証する指導

手立て

- ・自分達で見通しをもって進める自己調整学習
- ・こども達の学習の方向性に修正・助言を行う「教師からの働きかけ」

成果と課題

- ひとりひとりが目的意識をもって課題に向かう姿が見られた。
- 教師のファシリテーションが学習者の思考を深めたり、動機付けを行ったりするのに有効だった。
- ▲おたの未来づくり科としての教材の提示の仕方
- ▲課題解決に対して、必要感をもったグルーピングを行っていく。



手立て②

⇒協働的な学びを充実させるための学習スタイル

手立て

- ・多様な表現や関わりを生み出すためのICTの活用
- ・こどもが自ら選んで使う「思考ツールの活用」
- ・こどもの協働的な学びを優先した教師のファシリテートの仕方

成果と課題

- 目的意識をもって、主体的に思考ツールを用いていた。
- 思考ツールを用いて、アイデアの拡散と収束が行えていた。
- ▲ICTや思考ツールを使うことに対して、必要感をもって思考ツールを用いることの定着を行う。
- ▲グループによる差を少なくするために、児童主体のグルーピングとともに、教員の意図も入れる。

<今年度の研究の成果と課題>

○ 今年度の研究の成果

「おおたの未来づくり」科の全面実施に向けて、低学年及び中学年では、生活科や社会科等で創造的な資質・能力の素地の育成、高学年では単元開発を通して、「課題を解決する力」「新たな価値を創造する力」の育成を目指し、校内研究を進めてきました。

今年度の研究成果として、地域や社会に貢献しようとする意識が大きく向上しました。6年生が4月に回答した全国学力・学習状況調査の児童質問「地域や社会をよくするために何かをしたい」の項目では、肯定的な回答をした児童は56.1%でしたが、1月の回答では70.7%となり約15%増加しています。また、「自分と違う意見について考えるのが楽しい」「話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」という児童の割合も、それぞれ約10%程度増加しています。

これらの成果は、個別最適な学びと協働的な学びを通して、児童一人一人が創造的な資質・能力を高めている姿であると捉え、今後とも校内研究の充実を図ってまいります。

○ 課題、今後の手だて

今年度の研究において、本校の課題は、地域との連携を深め、授業の質を向上させることです。

まず、地域資源を活かした実践的な学びを深めるために、町工場見学や海苔つけなど、本校ならではの教育活動を増やし、児童が地域の魅力を身近に感じられる学びの場を作ることが重要です。また、児童が課題解決能力や新たな価値を創造する力を育むために、問題を自ら発見し、教室の中だけでなく学ぶ場所や相手、ICT活用などの様々な学び方を選び、多面的・多角的な視点から解決策を考える力を育む必要があります。これを実現するために、試行錯誤を繰り返しながら、自己評価や振り返りを行い、学びを調整する力を身に付けることが求められます。さらに、教員間での学びや情報共有を進めることが、教育実践の質を高め、学校全体の取り組みを強化する鍵となります。これらの手立てにより、児童の学びがより豊かになり、目標達成に繋がることを確信しています。

最後に、これまでの研究において、貴重なご助言とご指導をいただきました講師の方々と大田区教育委員会指導課の皆様に、心より感謝申し上げます。

<ご指導いただいた講師の先生>

講義 統括指導主事 秋山 亮 様 令和6年6月20日（木）

『新教科「おおたの未来づくり」のねらいや考え方、児童に身に付けさせたい力について』

講義 大田区立小池小学校 主任教諭 伊藤 育美先生 令和6年7月2日（火）

「小池小学校の研究実践及び指導上の工夫等について」

講師 指導課 指導主事 遠藤 健太 様 令和6年10月16日（水）

単元名 第3学年 社会科「安全なくらし（火さいから人々を守る）」

講師 指導課 指導主事 村松 千恵子 様 令和6年12月9日（月）

単元名 第2学年 生活科「もっと知りたい たんけんたい」

講師 指導課 指導主事 江袋 勇樹 様 令和7年1月24日（金）

単元名 第5学年 総合的な学習の時間「町工場のものづくりを紹介しよう」